

# 最近の消費・輸入動向等について

《 目 次 》

- 1. 家計における購入、支出動向等
  - (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入 . . . . . P. 1～3
  - (2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入 . . . . . P. 4～5
  - (3) 外食の支出 . . . . . P. 6
  - (4) 野菜の摂取量 . . . . . P. 7
- 2. 小売の販売動向
  - (1) チェーンストア . . . . . P. 8
  - (2) スーパーマーケット . . . . . P. 9
  - (3) 品目別小売価格 . . . . . P. 10
- 3. 外食の市場動向 . . . . . P. 11
- 4. 輸入の動向 . . . . . P. 12～13
- 5. 平成26年産秋冬野菜主要品目の主産県別生産・出荷等 . . . . . P. 14
- 6. 今後の気象予報 . . . . . P. 15～16

## 1. 家計における購入、支出動向等

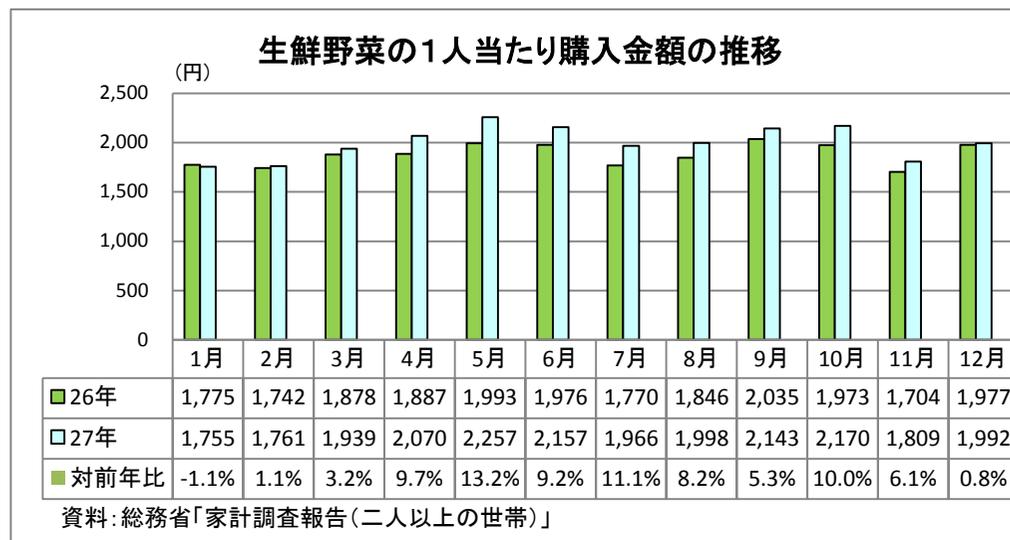
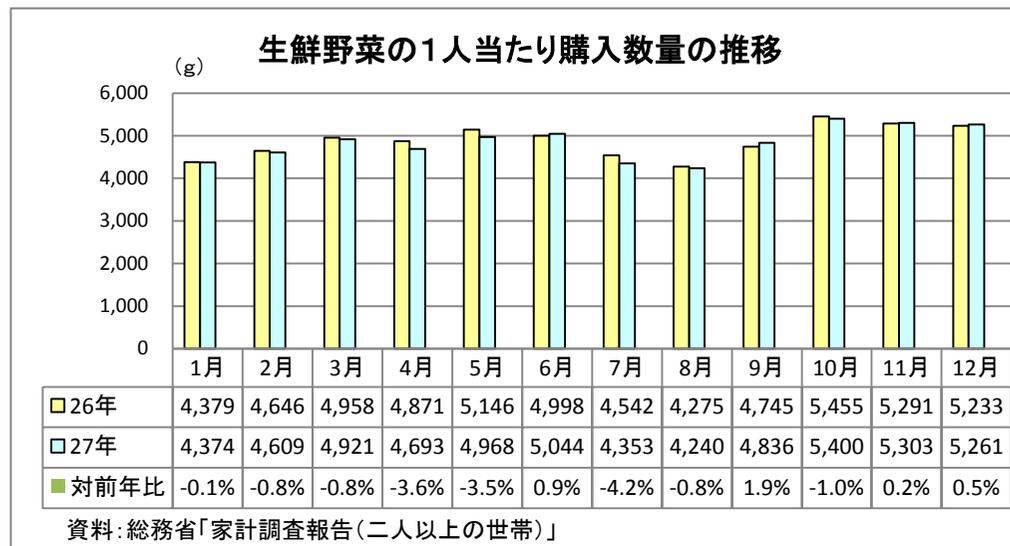
### (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

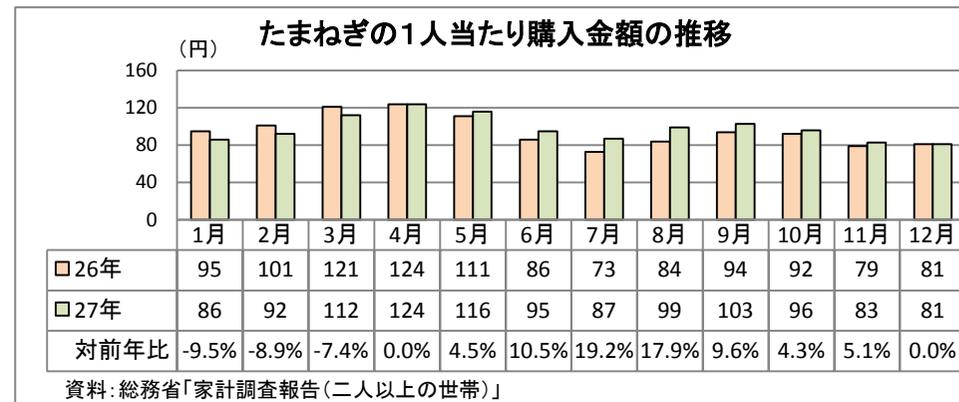
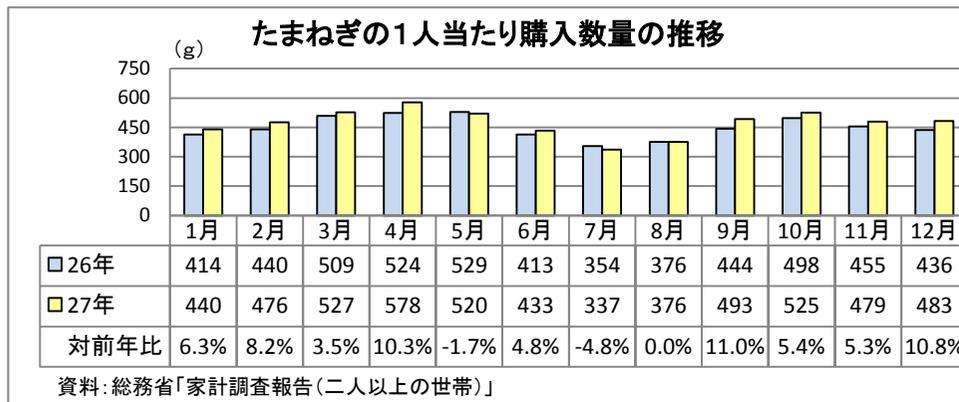
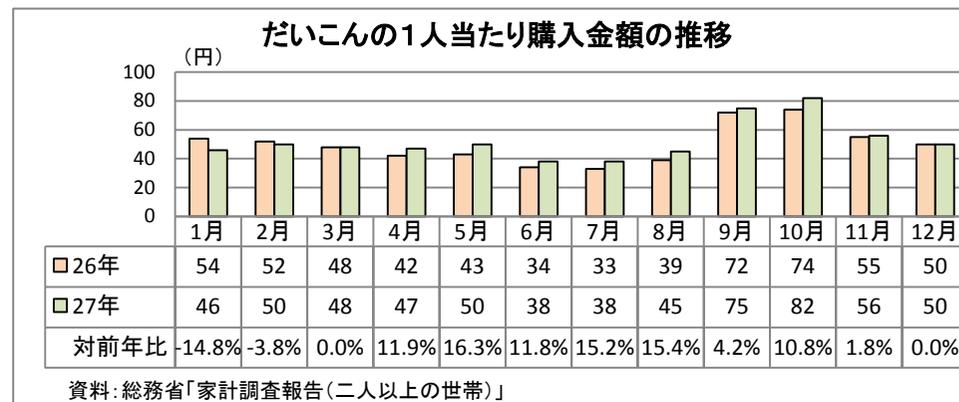
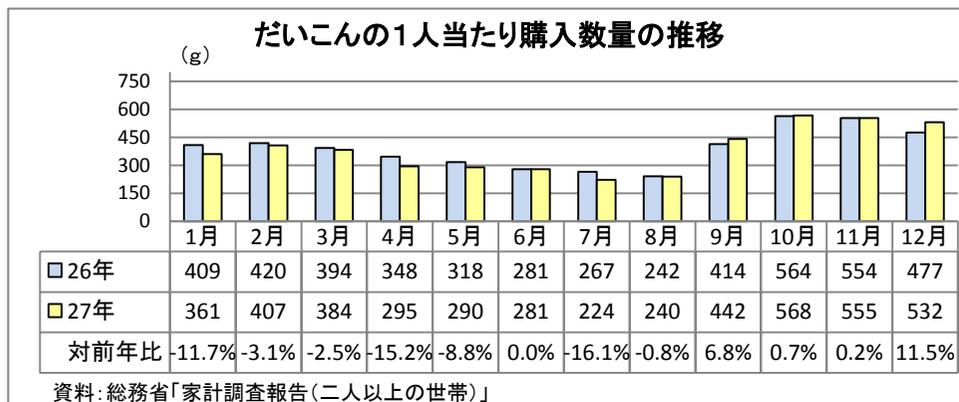
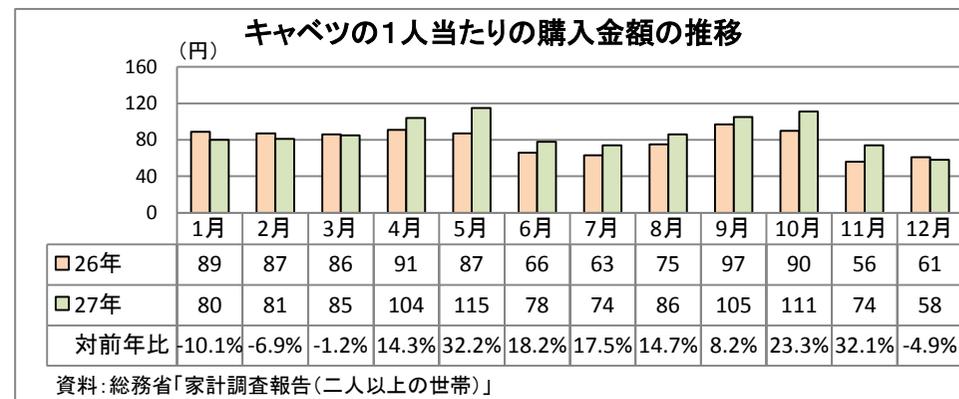
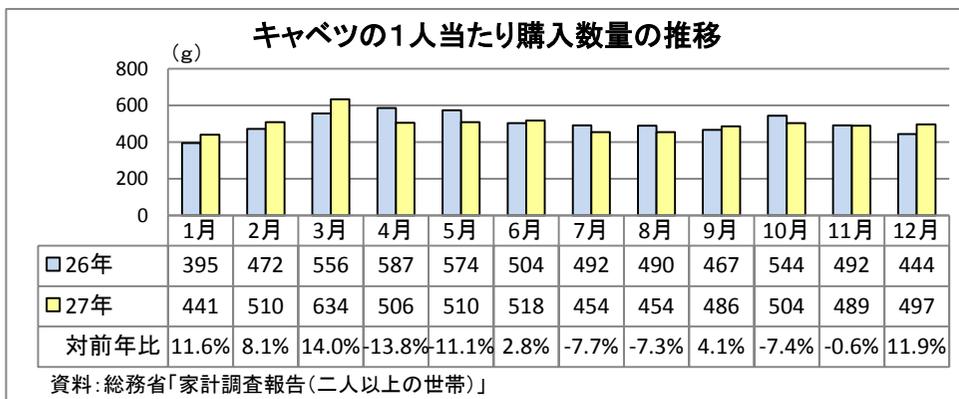
#### <購入数量>

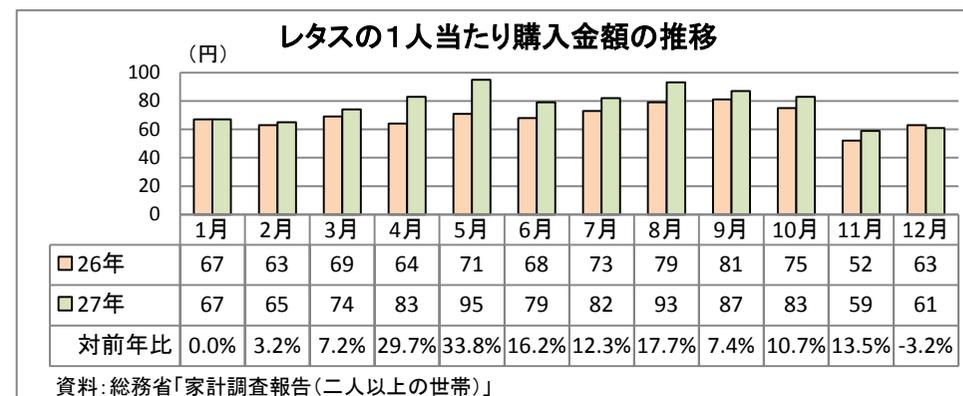
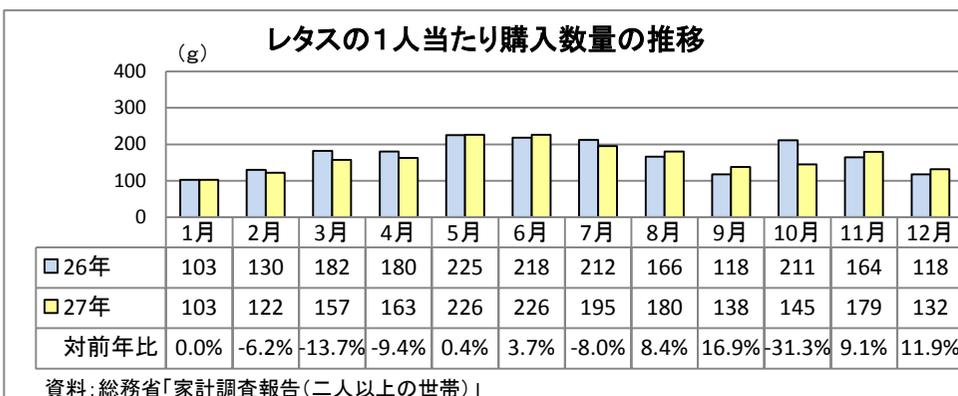
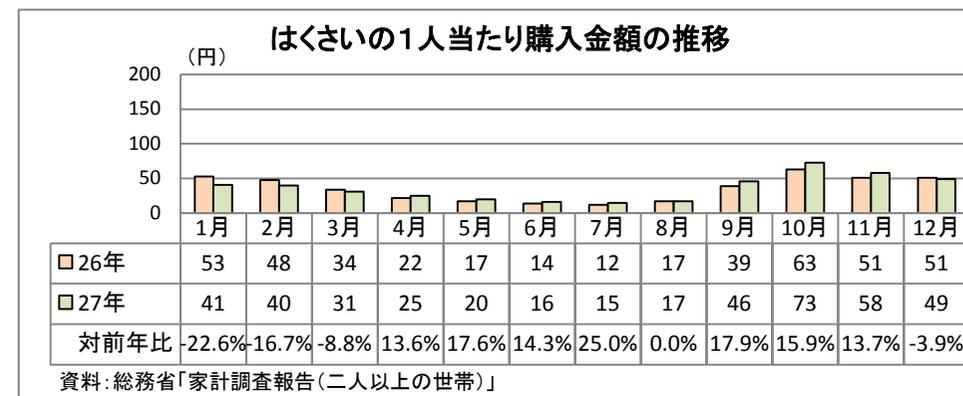
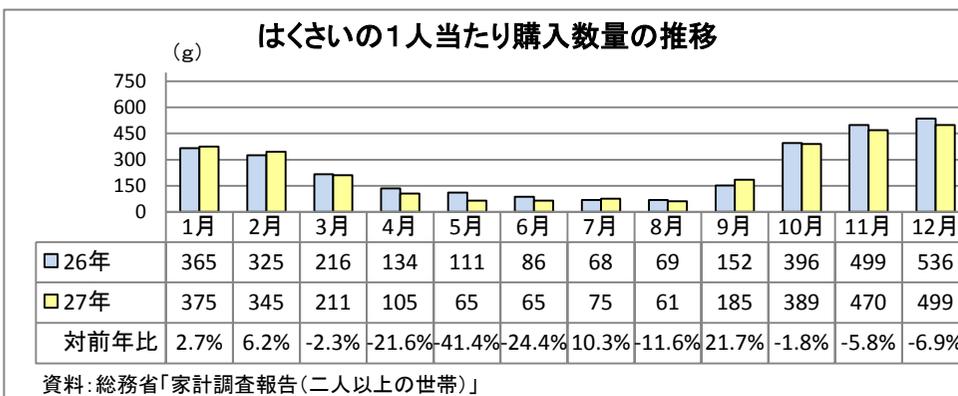
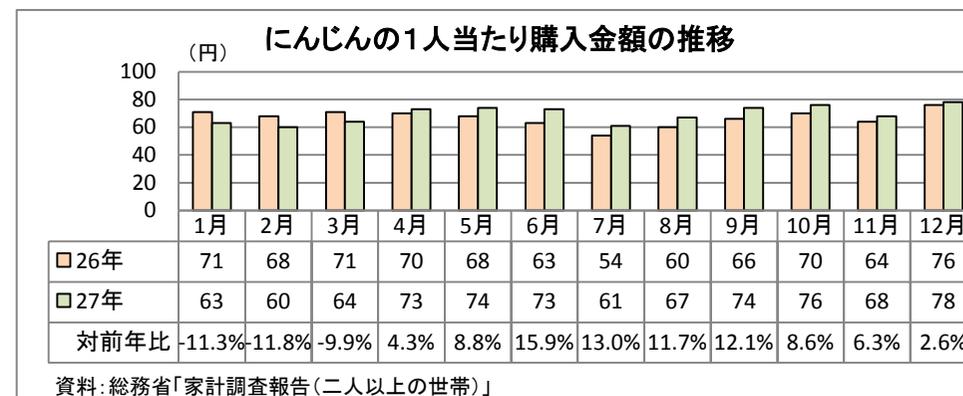
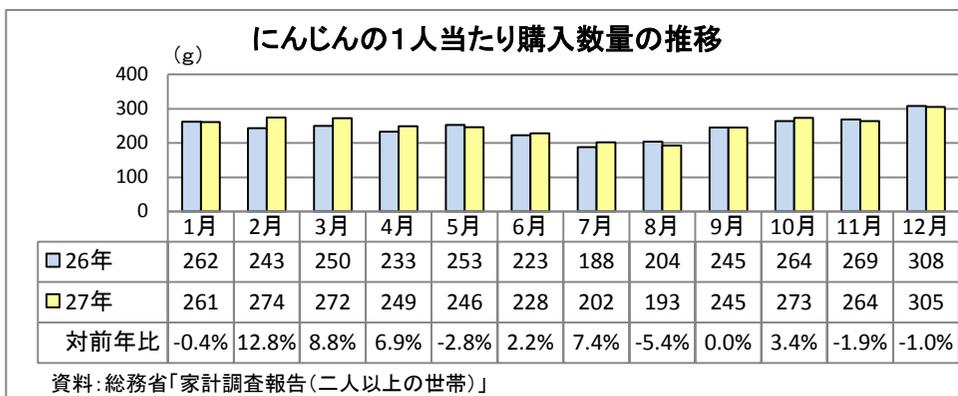
- 生鮮野菜の1人当たりの購入数量は、平成27年1月から3月は、ほぼ前年並みで推移した。
- 4月、5月は、天候不順の影響でキャベツ等の出荷量の減少により価格が上昇して前年を下回った。
- 7月は、だいこん等一部品目が干ばつの影響で入荷量の減少から価格が上昇し前年を下回った。
- 9月は、だいこんなどが天候不順による品質低下が見られたが、その後適度な降雨により回復し価格も下がり前年を上回った。
- 10月は、レタスが順調な出荷だった前年を下回ったこと等により価格が上昇して前年を下回った。

#### <購入金額>

- 生鮮野菜の1人当たりの購入金額は、1月を除き、天候不良による品薄感などから高値傾向となり前年を上回った。
- 4月から6月にかけて、キャベツなど一部品目で品薄感から高値傾向であったことから前年を上回った。
- 7月及び8月は、高温や干ばつの影響で野菜全体が品薄による価格高騰により前年を上回った。
- 9月及び10月は、天候不順の影響で多くの品目において入荷量の減少により価格高騰で前年を上回った。
- 11月は、前年のキャベツやにんじんなど一部品目が安値であったことから前年を上回った。

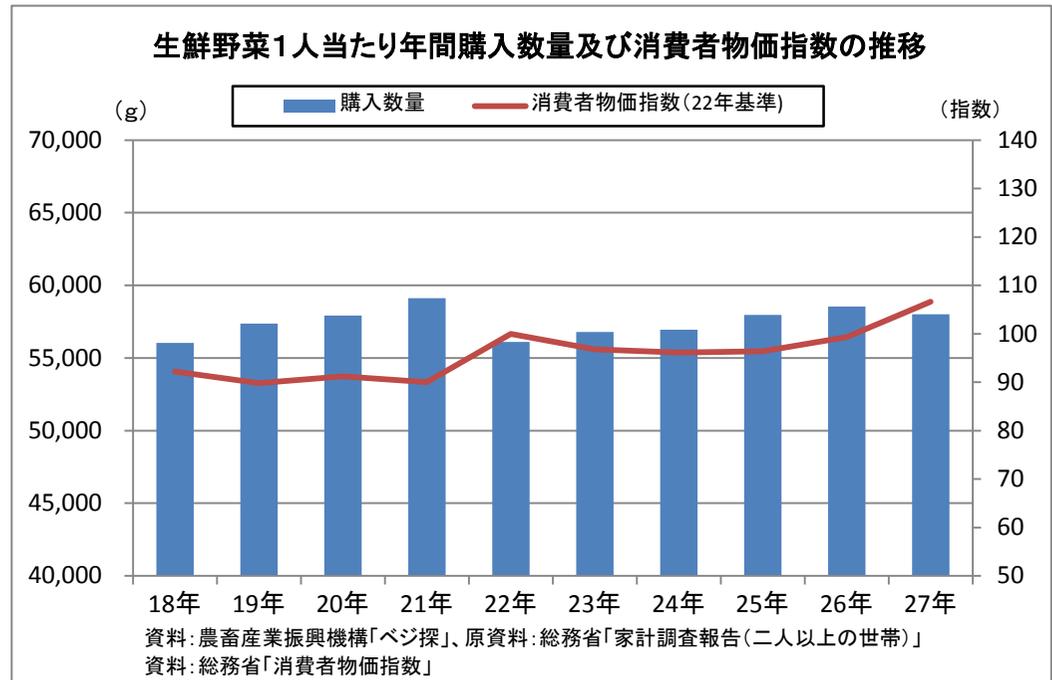




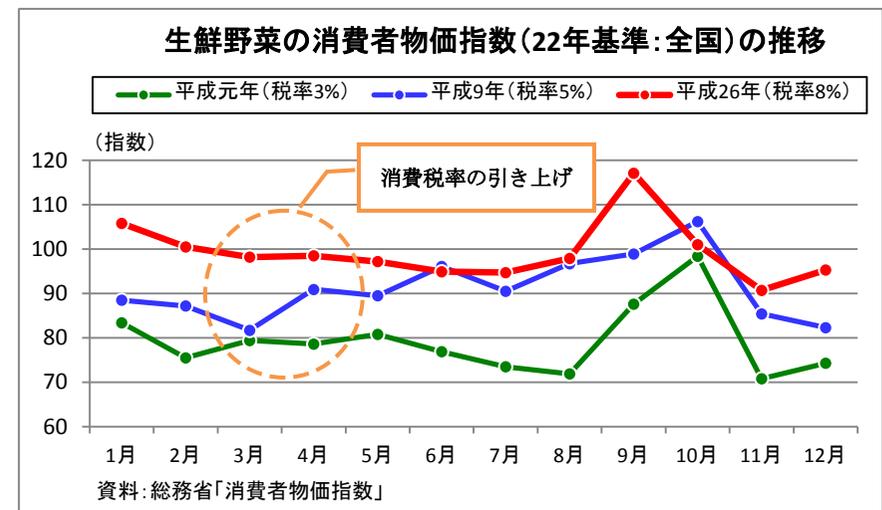
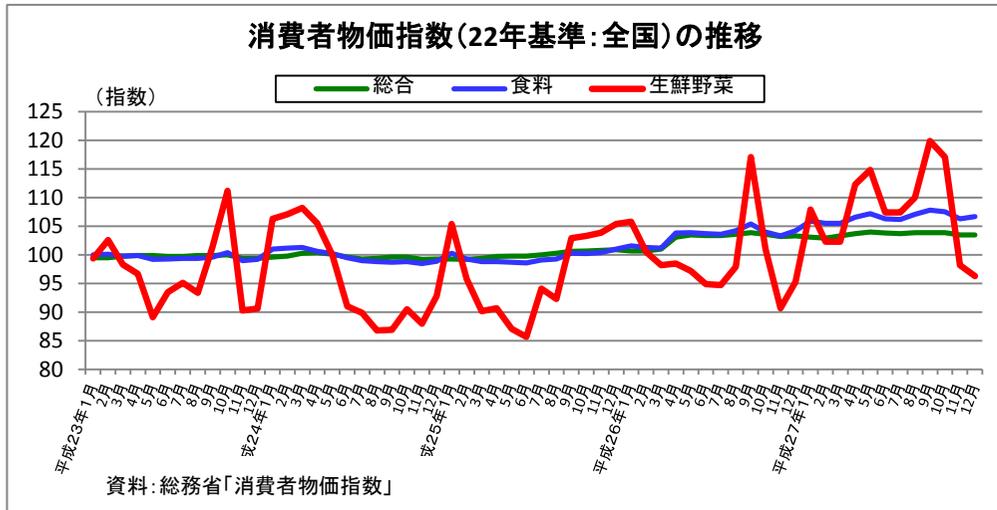


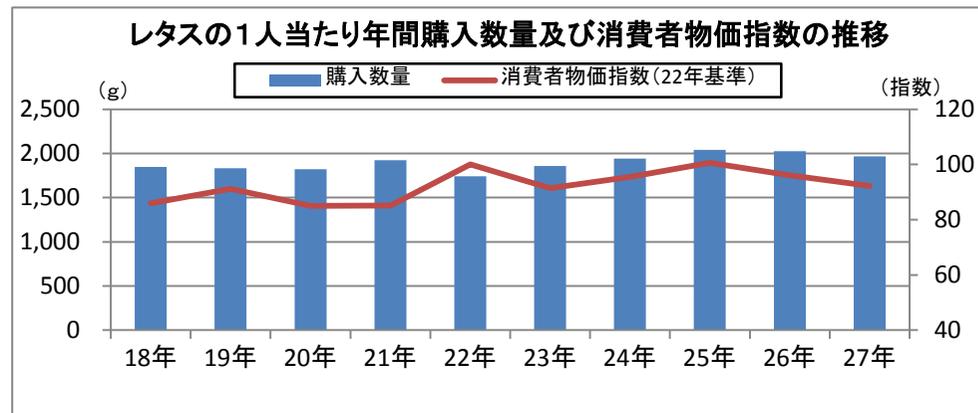
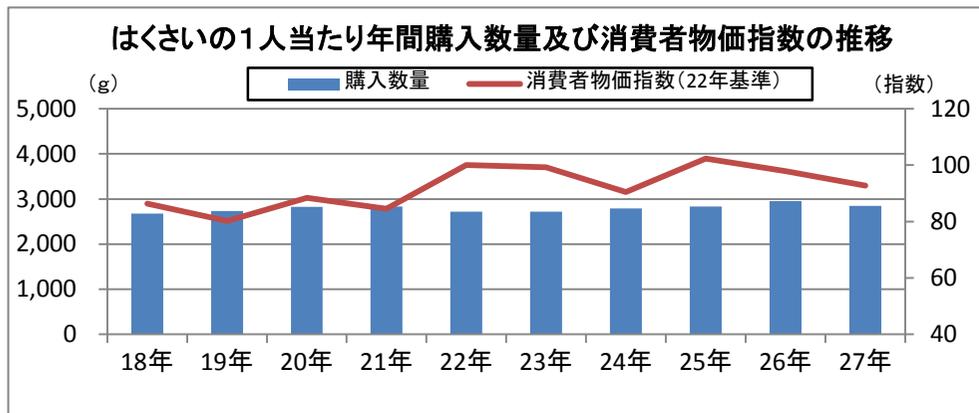
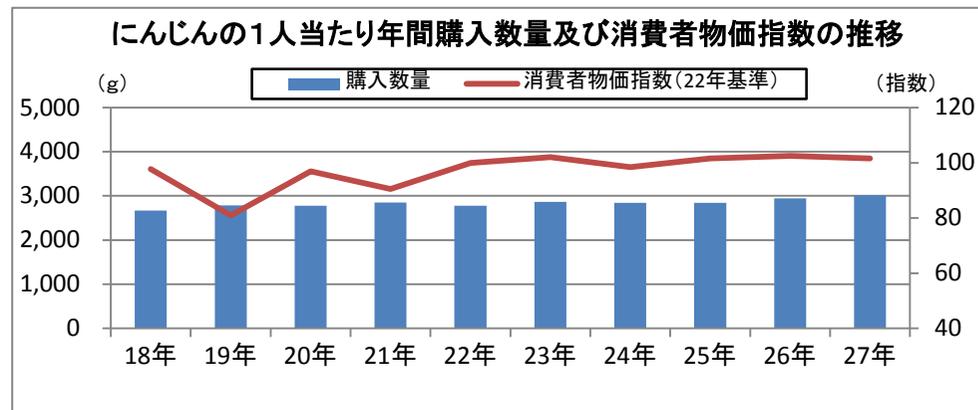
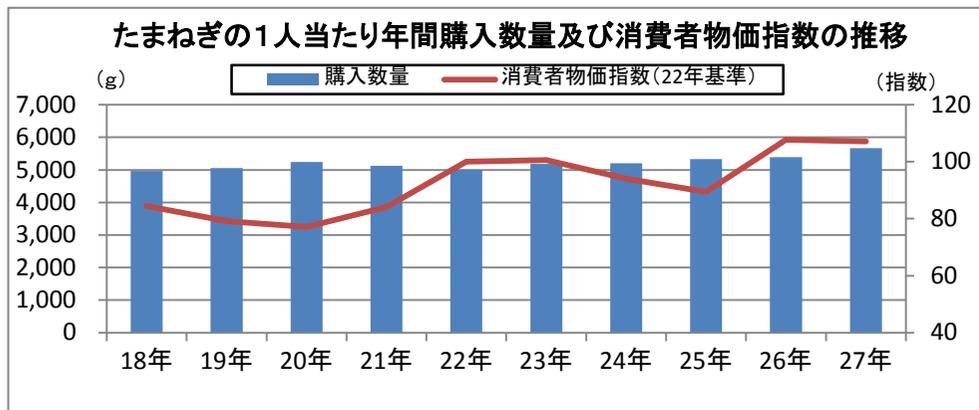
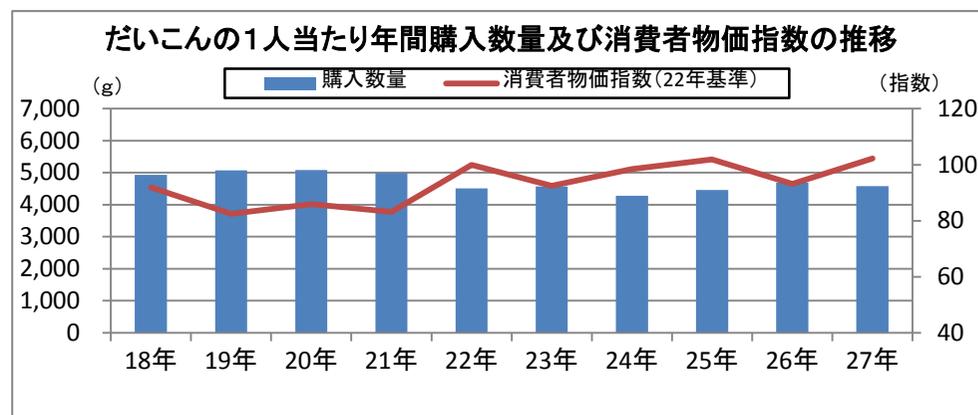
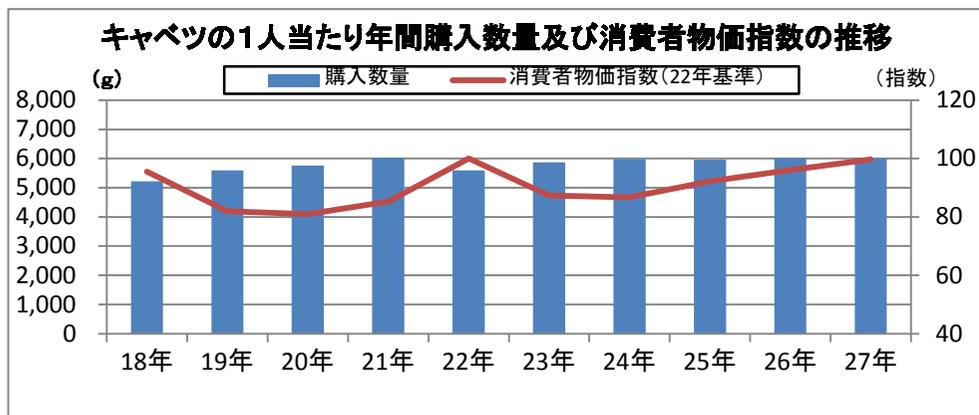
## (2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入

- 生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は年によって変動するものの、消費者物価指数（小売価格）が高くなると、購入数量が減少する傾向が見られた。
- 生鮮野菜1人当たり年間購入数量を品目別にみると、近年、たまねぎ及びにんじんは増加傾向、だいこんは減少傾向、キャベツ、レタス及びはくさいは横ばい傾向がみられた。
- 消費者物価指数については、消費税率が引き上げられた平成26年4月には、総合は前月比2.1%、食料は2.6%それぞれ上昇したものの、生鮮野菜は0.3%の上昇にとどまった。平成27年以降の生鮮野菜指数は、上昇傾向で推移し、9月には指数で約120%となったものの、その後、下落傾向となり12月には指数で約96%となった。



### 【参考】

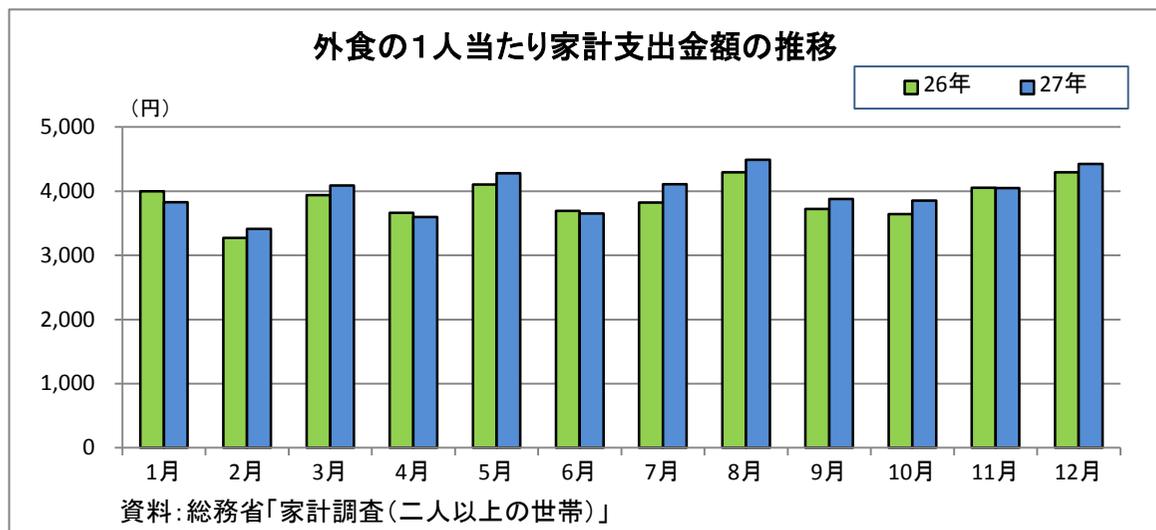




資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：総務省「家計調査報告（二人以上の世帯）」資料：総務省「消費者物価指数」

### (3) 外食の支出

- 平成 27 年の外食の家計支出金額は、1 月は寒い日が多く外食機会が減り前年同月を下回った。
- 2 月及び 3 月は、記録的な大雪となった昨年と比べ、比較的天候に恵まれ外食機会が増え前年同月を上回った。
- 5 月は、休日数が前年より多く、好天に恵まれ、全国的に気温も高かったことから前年同月を上回った。
- 7 月及び 8 月は、夏休み需要も堅調で、客単価が上昇したことから前年同月を上回った。
- 9 月及び 10 月は天候に恵まれ、12 月は暖冬と年末需要が堅調であったことから前年同月を上回った。



- 平成 27 年 12 月の消費支出に占める外食の割合は 4.2% となり、前年同月を上回った (107%)。
- 平成 27 年 12 月の食料支出に占める外食の割合は 15.1% となり、前年と同じであった (100%)。

#### 家計調査(二人以上の世帯)

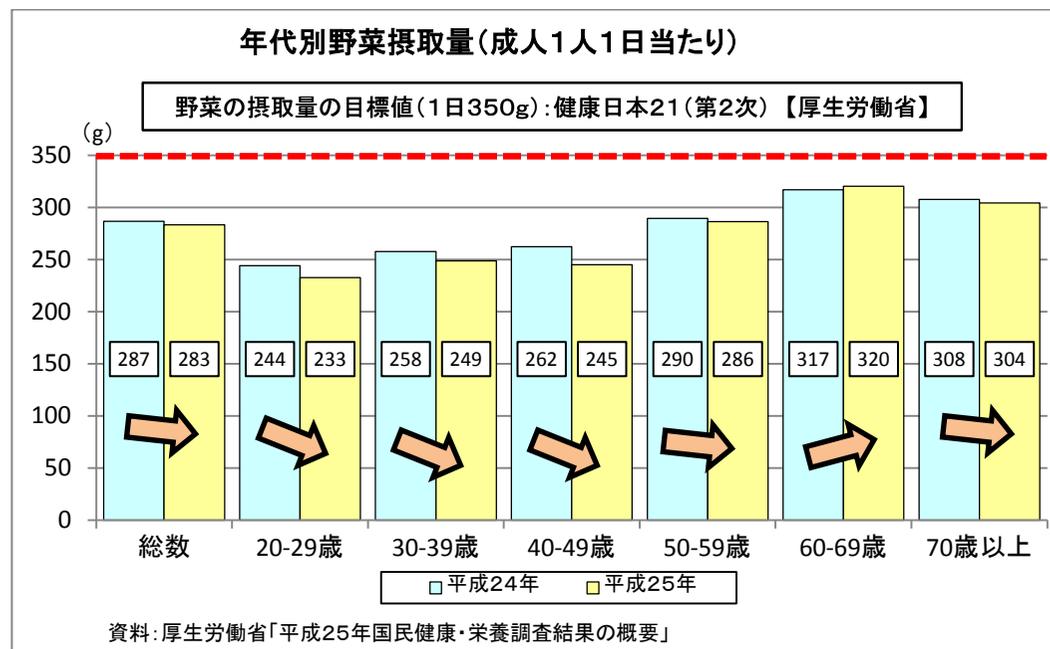
品目分類	26.12支出金額	27.12支出金額	対前年同月比
世帯人員(人) <①>	3.03	3.01	—
消費支出(円) <②>	332,363	318,254	96%
食料(円) <③>	86,191	88,327	102%
外食(円) <④>	13,018	13,314	102%
外食(1人当たり) <⑤=④/①>	4,296	4,423	103%
消費支出に占める割合(%) <⑥=④/②>	3.9	4.2	107%
食料に占める割合(%) <⑦=④/③>	15.1	15.1	100%

#### (4) 野菜の摂取量

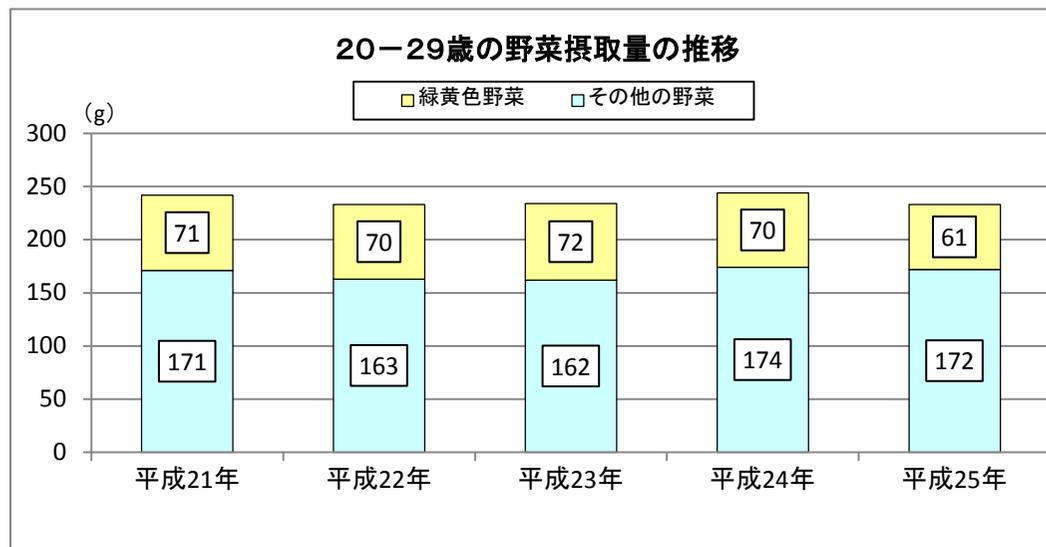
- 平成 25 年の成人 1 人 1 日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて減少し 283 グラム（前年比 99%）となり、依然として、健康日本 21（第 2 次）で示された、野菜の摂取量の目標値（1 日 350 g）を下回っている。

また、各年代別に見ても目標値に達した年代はなく、これまでと同様に 20 代が一番低い水準となっている。

- 60～69 歳を除く全ての年代で、前年よりも野菜摂取量が減少しており、その中で、40 代の野菜摂取量の減少量が大きくなった。



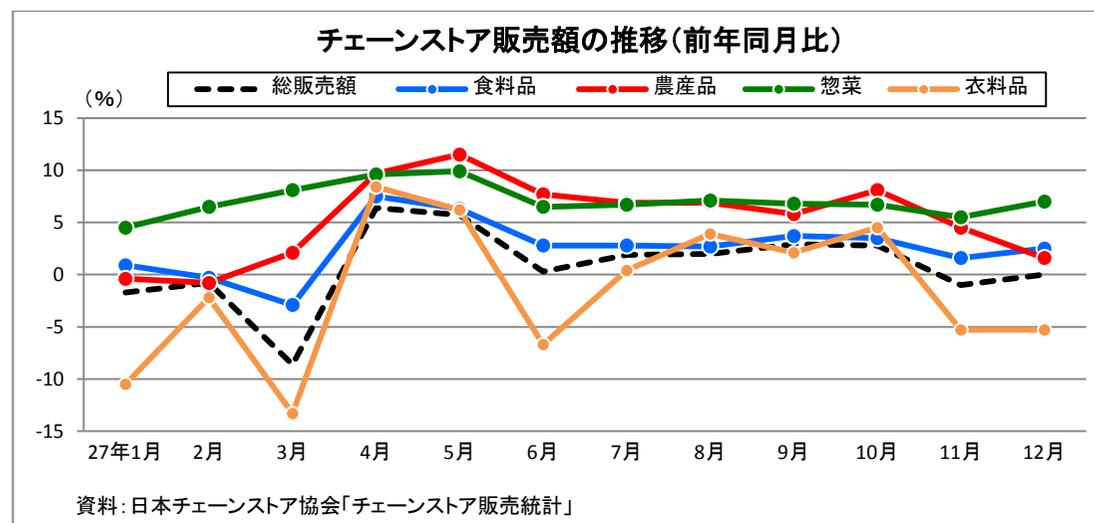
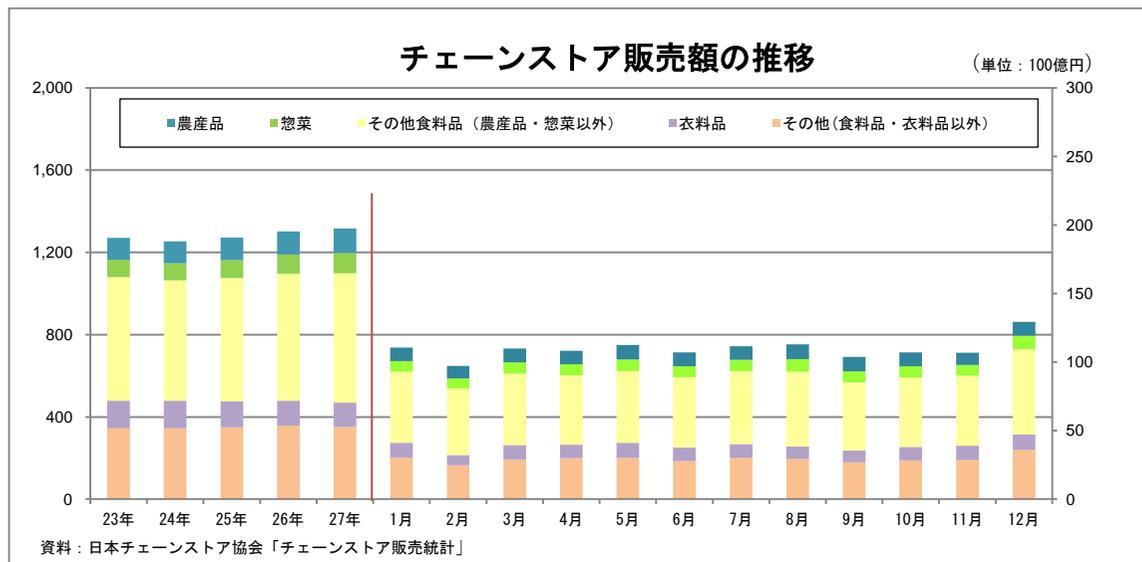
- 野菜摂取量が最も少ない 20 代の、過去 5 年の摂取量を見ると、ほぼ横ばい傾向で推移している。
- 20 代の平成 25 年の摂取量を見ると、緑黄色野菜が大きく減少（前年 13.0%減）したものの、その他の野菜がわずかな減少（前年 1.2%減）にとどまったことから、全体では前年比 4.5%の減少となった



## 2. 小売の販売動向

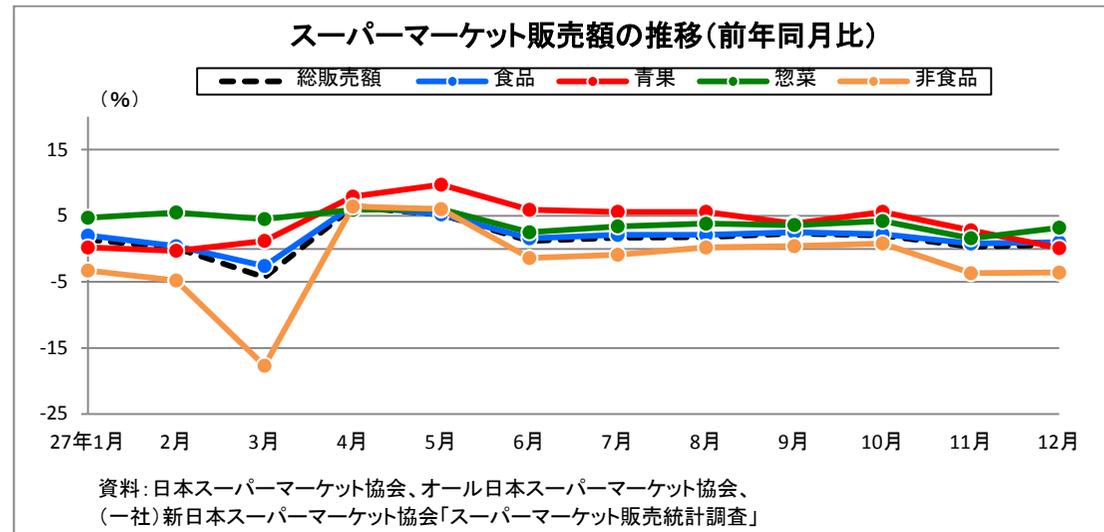
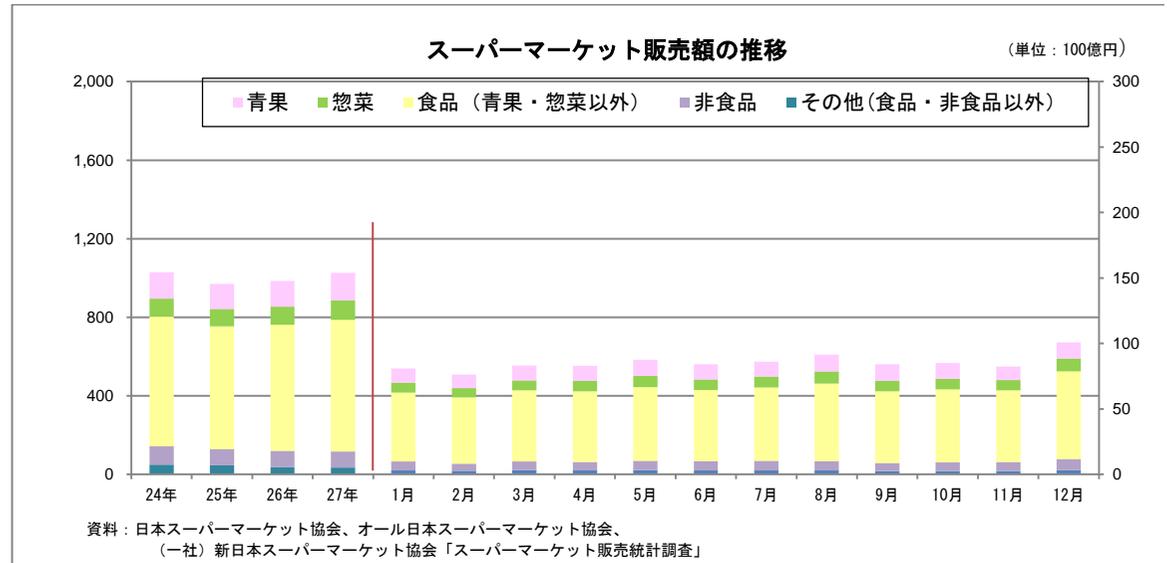
### (1) チェーンストア

- 総販売額の直近5年では、24年以降、食料品などが好調により前年を上回って推移した。なお、平成27年の最高額は12月の1兆2,948億円、最低額は2月の9,718億円であった。
- 農産品の直近5年では、農産物の相場高等もあり1兆円超で推移した。なお、平成27年の最高額は8月の1,080億円、最低額は11月の888億円であった。
- 惣菜の直近5年では、消費者のニーズの高まりや農産品の相場高等を背景に、上昇基調で推移した。なお、平成27年の最高額は12月の988億円、最低額は2月の727億円であった。
- その他の食料品（農産品、惣菜以外）の直近5年では、6兆円前後で推移した。なお、平成27年の最高額は12月の6,195億円、最低額は、2月の4,868億円であった。
- 平成27年3月の総販売額（前年同月比）は、前年の消費税増税の駆け込み需要増から大幅に下回った。4月は増税による買え控えの反動などもあり前年同月を上回り、11月は温暖な気候により季節商品（鍋物等）が不調のため前年同月を下回った。
- 食料品は、総販売額と同様の動向であった。10月以降は、惣菜が好調で前年同月を上回った。
- 農産品は、4月以降は野菜価格の高騰等により前年同月を上回った。11月以降、暖冬の影響による鍋物関連商材の苦戦により下降傾向で推移した。
- 惣菜は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりで消費者に支持され、また、増税の影響もなく堅調に推移したことから前年同月を上回った。

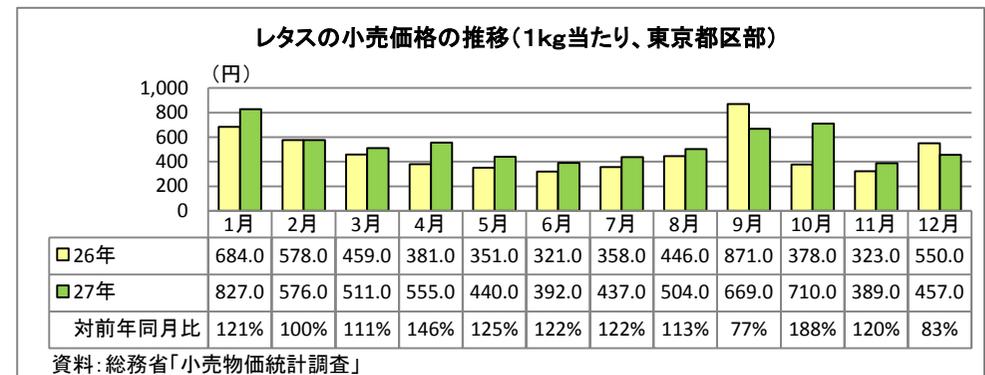
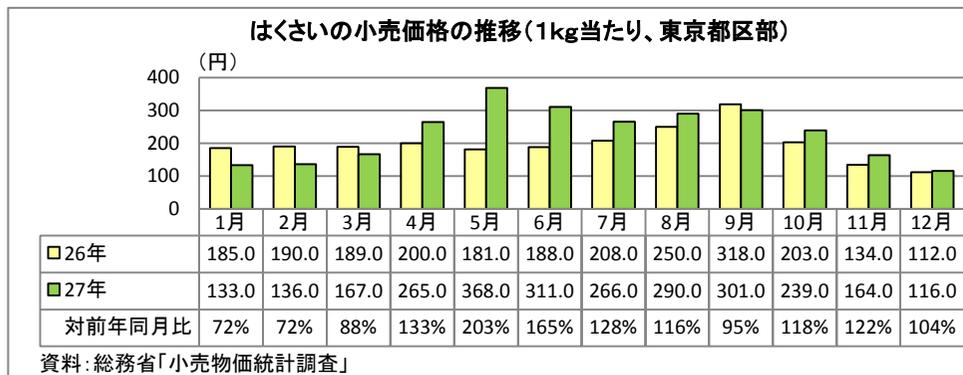
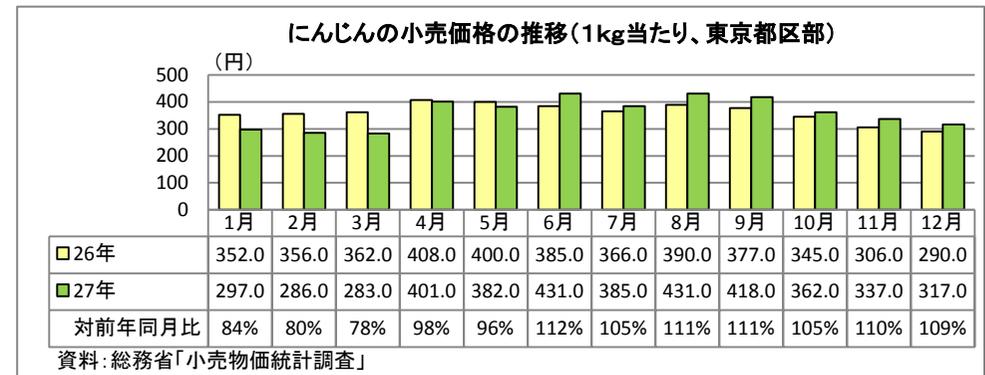
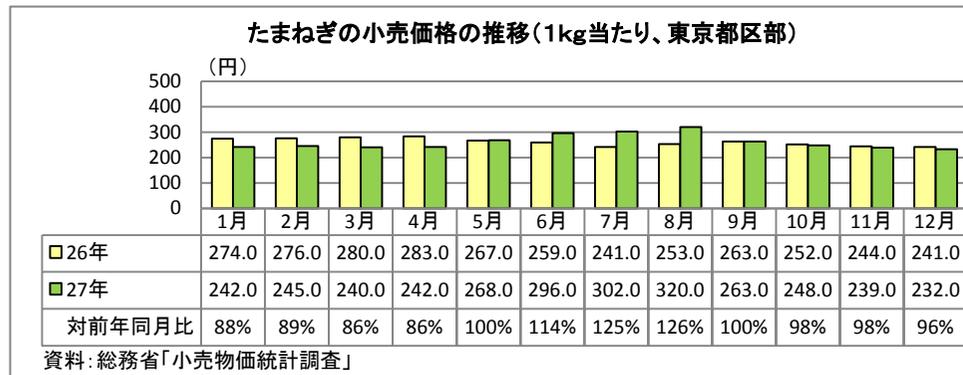
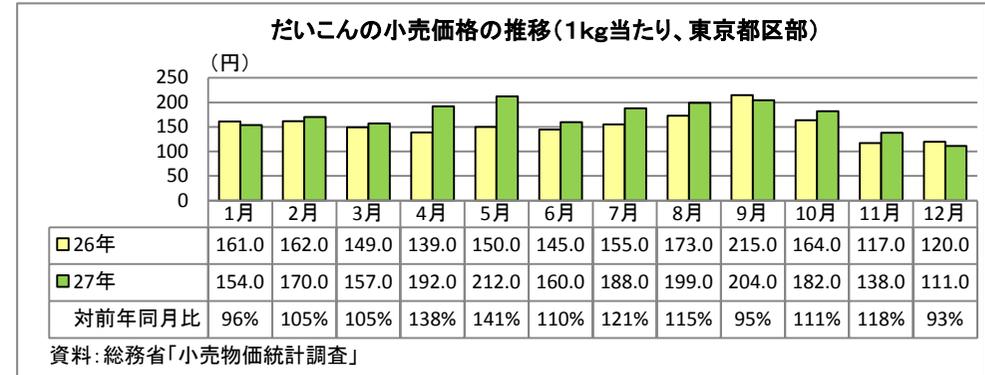
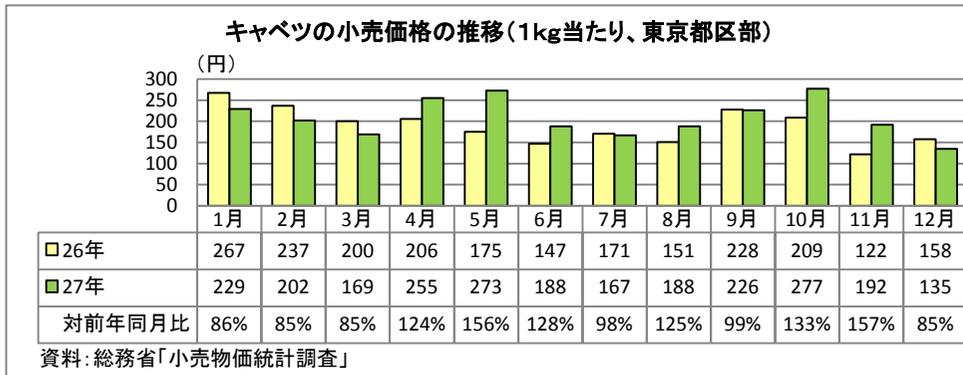


## (2) スーパーマーケット

- 総販売額の直近4年では、食品などが好調であった24年及び27年が10兆円超となった。なお、平成27年の最高額は12月の1兆88億円、最低額は2月の7,635億円であった。
- 青果の直近4年では、1兆3千億円前後で推移した。なお、平成27年の最高額は8月の1,283億円、最低額は2月の1,033億円であった。
- 惣菜の直近4年では、9千億円前後で推移し、平成27年が9,899億円で最高額であった。なお、平成27年の最高額は12月の975億円、最低額は2月の730億円であった。
- 食品（青果、惣菜以外）の直近4年では6兆5,000億円前後で推移した。なお、平成27年の最高額は12月の6,719億円、最低額は2月の5,040億円であった。
- 3月の総販売額（前年同月比）は、前年の消費税増税の駆け込み需要から前年同月を下回ったが、その他の月では前年同月を上回った。
- 食品は、総販売額と同様の動向であった。
- 青果は、特に4月以降は野菜価格の高騰の影響から前年同月を大きく上回り、11月以降は、野菜価格の下落の影響により下降傾向となった。
- 惣菜は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりなどにより支持され、消費税増税や円安などの影響もなく前年同月を上回って推移した。

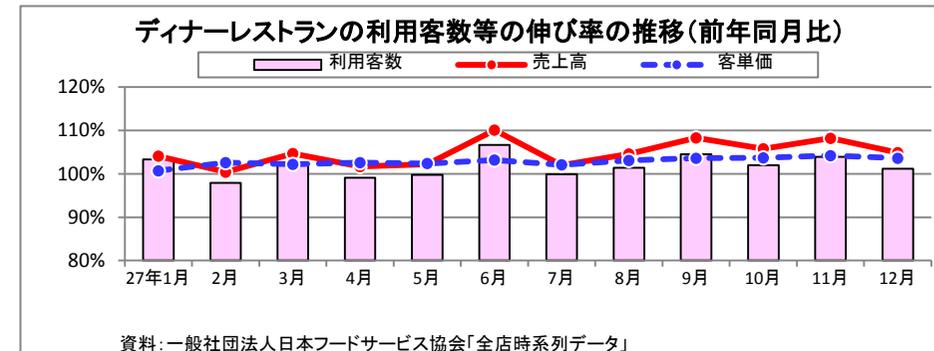
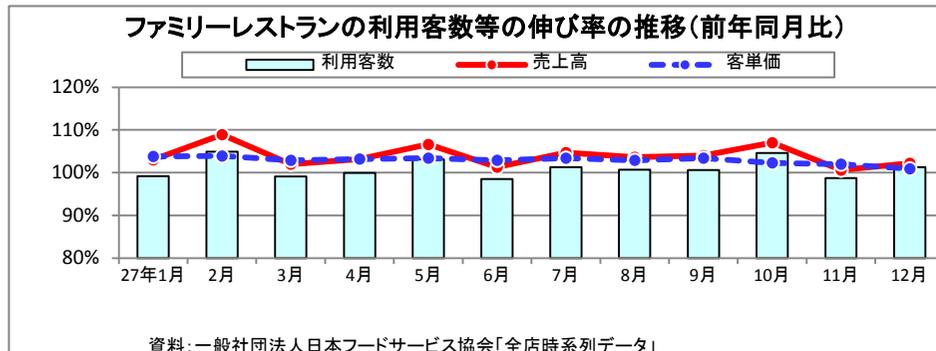
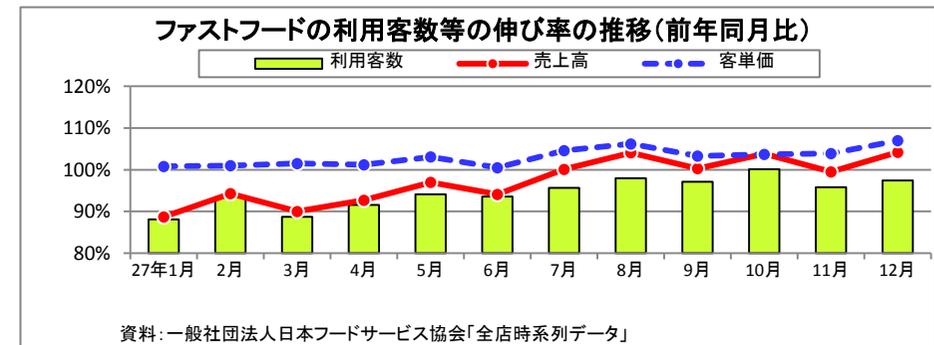
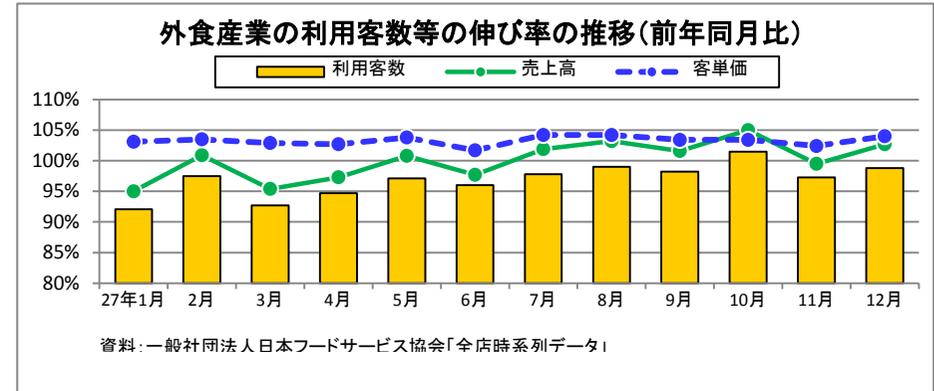


### (3) 品目別小売価格



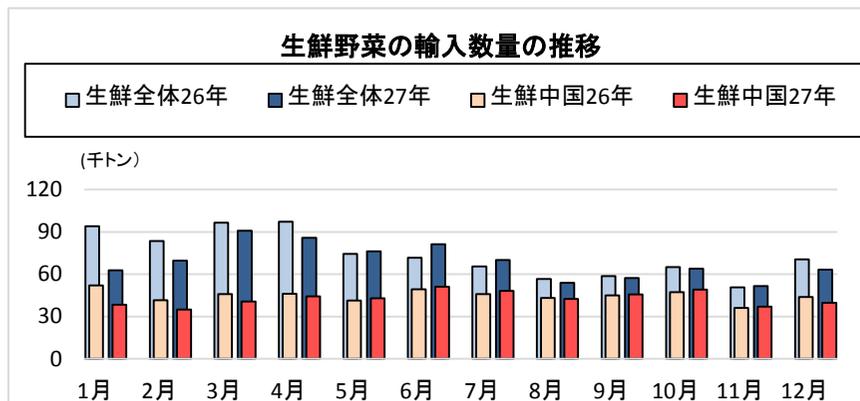
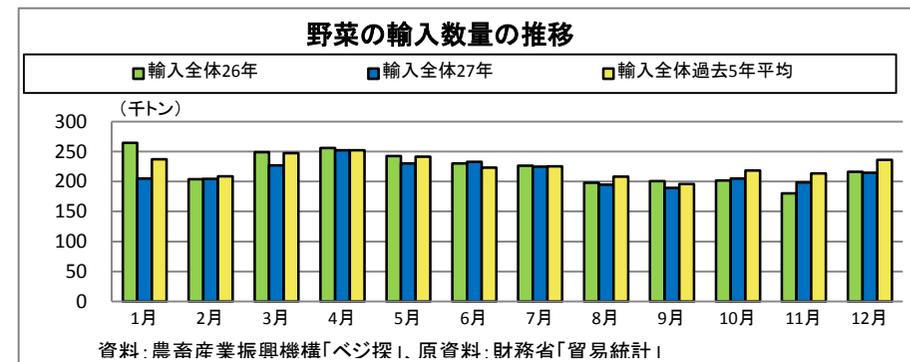
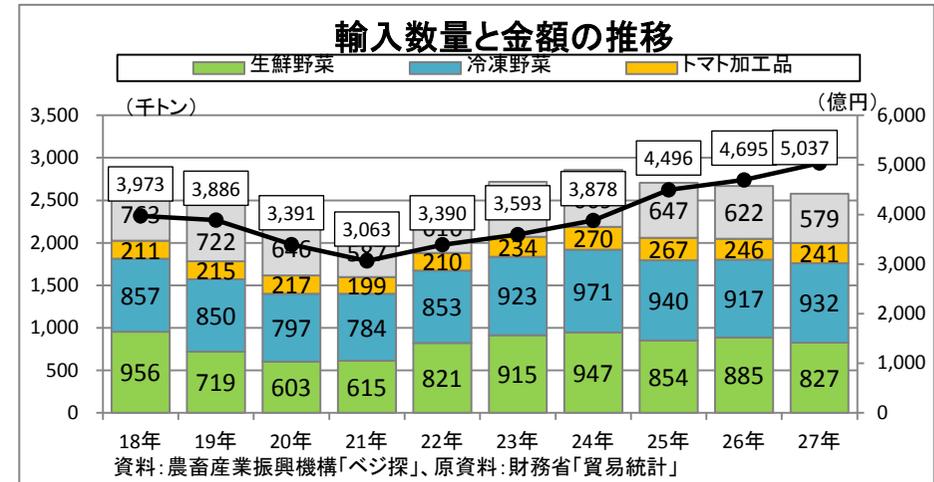
### 3. 外食の市場動向

- 外食店の利用客数は、10月は好天と休日が多かったことから前年同月を上回ったが、その他の月は前年同月を下回った。特に、1月はファストフード店で発生した異物混入問題の影響から、1月及び3月は、前年同月を大幅に下回った。なお、2月は前年の雪の影響で利用客が少なかったこともあり、減少幅は縮小した。
- 売上高は、前年を下回る月が多かった。5月は例年に比べ休日が多く、7月及び8月は夏休み需要、10月は天候も良く外出機会も増え、12月は暖冬で年末需要もあったことから前年同月を上回った。
- 客単価は、高価格帯の商品が支持されたことなどから、平成25年5月以降、31か月連続で前年同月を上回った。
- 業態別では、ファストフード店は、客単価が前年同月を上回って推移したものの、利用客数は10月を除き前年同月を下回った。売上高は、夏季のファミリー需要や、年末特需により前年同月を上回ったが、11月は雨天が多く季節メニューが振るわず前年同月を下回った。
- ファミリーレストランでは、利用客数は前年同月を上回る月が多かった。客単価は、高付加価値メニュー等の効果により前年同月を上回り、売上高は全ての月で前年同月を上回った。
- ディナーレストランの売上高と客単価は、暖冬とインバウンド効果が相まって前年同月を上回った。利用客数は、前年同月を上回る月が多かった。

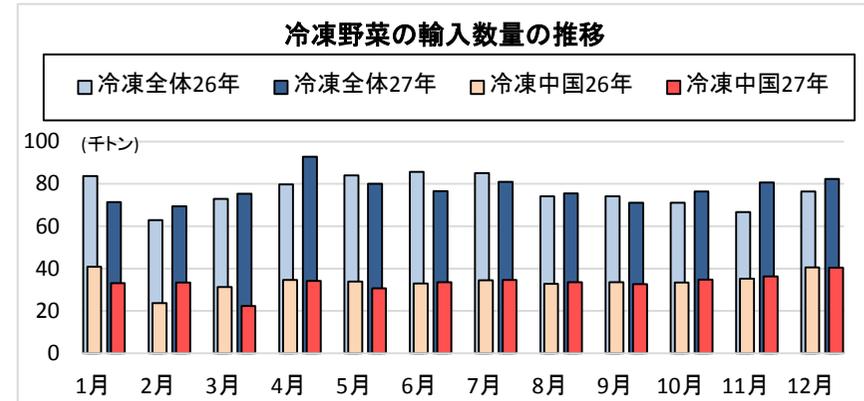


#### 4. 輸入の動向

- 平成 27 年の野菜全体の輸入数量は、円安による輸入価格の高騰に加え、生鮮野菜の中で輸出量が多い北海道産たまねぎの作柄が良く、上半期の輸入量が前年を大きく下回ったことなどから前年比 97% の 258 万トン（▲91 千トン）となった。
- 輸入金額は、円安による輸入価格の高騰に加え、輸入数量の過半を占める中国産の生産・加工コストの上昇などから、5,037 億円と過去最高となった。
- 類別では、生鮮野菜及び冷凍野菜の合計が野菜輸入数量の 6 割以上を占めた。
- 生鮮野菜の輸入数量は、昨年夏の中国産たまねぎの残留農薬問題などにより輸入物の引き合いが弱まり、4 月までは前年同月を下回ったものの、その後は、国産の品薄で加工・業務用の需要が高かったことなどから前年同月を上回った。8 月以降は、北海道産のたまねぎが豊作で、加工業者が国産への転換により前年を下回り、11 月は国産キャベツやレタスなどの減少により前年を上回った。
- 冷凍野菜の輸入数量は、4 月は生鮮野菜の価格高騰により代替品として冷凍野菜が支持されるなど前年を上回ったが、5 月以降は対前年をやや下回る程度で推移した。11 月以降は、前年が西海岸の港湾ストの影響でばれいしょ等が少なかったことのあり、前年を上回った。

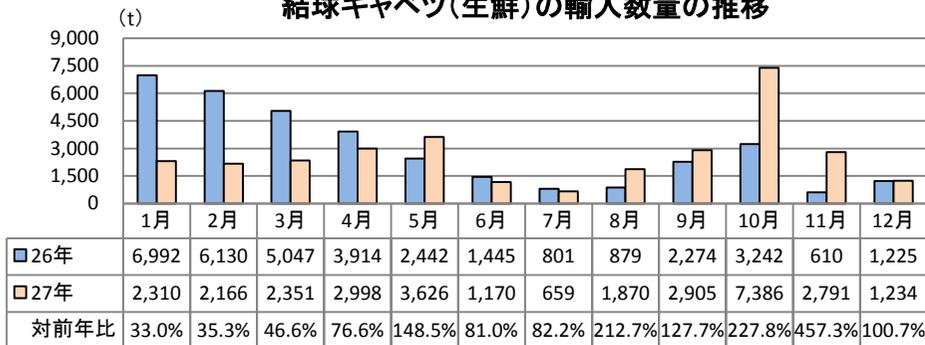


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

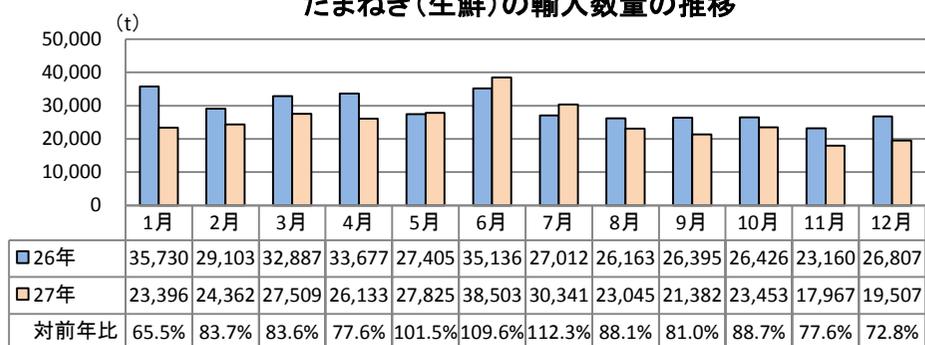


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

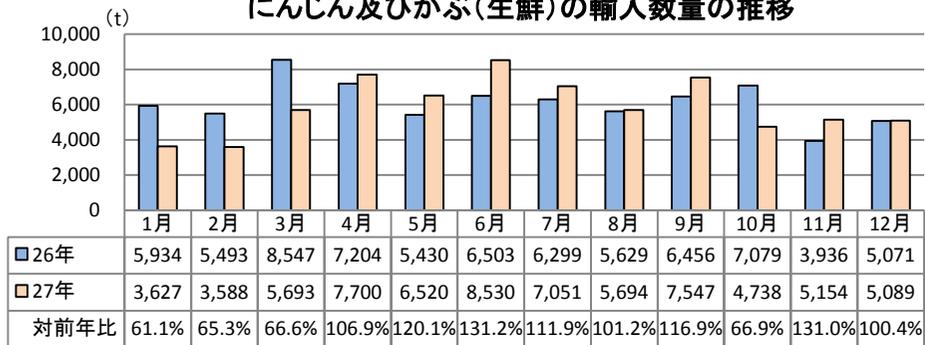
結球キャベツ(生鮮)の輸入数量の推移



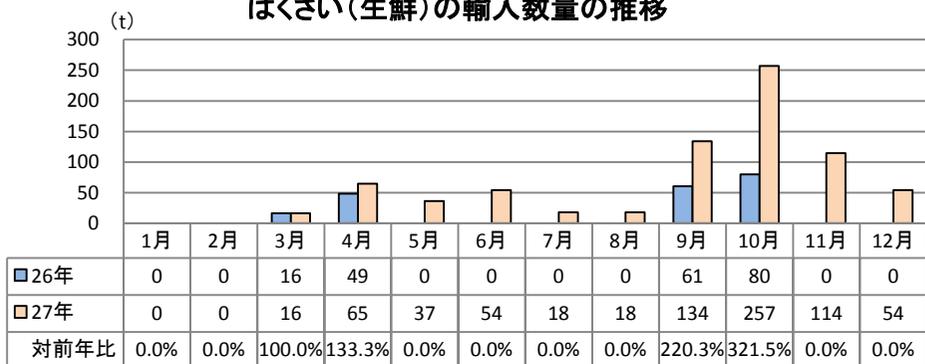
たまねぎ(生鮮)の輸入数量の推移



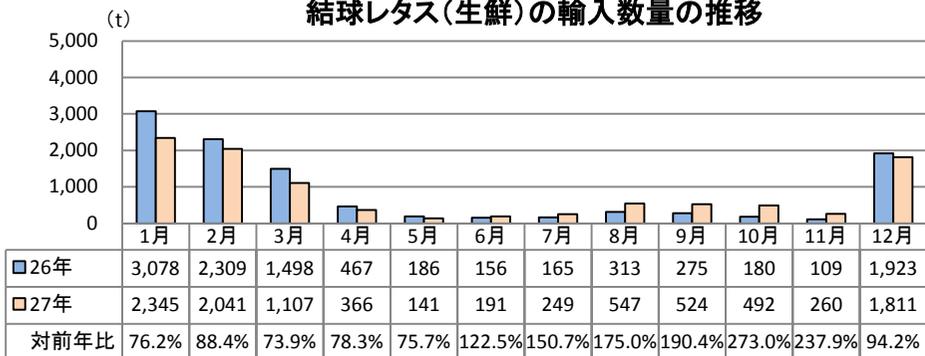
にんじん及びかぶ(生鮮)の輸入数量の推移



はくさい(生鮮)の輸入数量の推移



結球レタス(生鮮)の輸入数量の推移



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料: 財務省「貿易統計」

5. 平成26年産秋冬野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

資料：農林水産省「作物統計(野菜)」  
平成27年12月2日公表

○ 冬キャベツ						
順位	全 国・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	15,300	4,040	618,600	549,300	100.0
1	愛 知	4,310	4,550	196,100	185,600	33.8
2	千 葉	1,550	4,320	67,000	60,400	11.0
3	鹿 児 島	1,440	3,760	54,100	47,900	8.7
4	茨 城	895	4,250	38,000	34,900	6.4
5	神 奈 川	574	4,100	23,500	21,800	4.0
6	熊 本	546	3,610	19,700	17,200	3.1
7	兵 庫	443	4,290	19,000	16,100	2.9
8	福 岡	402	4,190	16,800	15,100	2.7
9	宮 崎	375	4,450	16,700	15,400	2.8
10	静 岡	287	3,650	10,500	8,800	1.6

○ 秋冬だいこん						
順位	全 国・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	22,100	4,400	971,900	738,700	100.0
1	宮 崎	1,900	4,740	90,100	82,000	11.1
2	千 葉	1,670	5,460	91,200	83,300	11.3
3	鹿 児 島	1,670	4,920	82,200	73,300	9.9
4	新 潟	1,430	3,800	54,300	34,800	4.7
5	神 奈 川	1,020	8,210	83,700	79,600	10.8
6	茨 城	988	5,270	52,100	42,000	5.7
7	青 森	930	4,110	38,200	33,000	4.5
8	北 海 道	758	4,400	33,400	29,500	4.0
9	福 島	618	3,660	22,600	7,870	1.1
10	長 野	601	2,780	16,700	5,780	0.8

○ たまねぎ						
順位	全 国・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,300	4,620	1,169,000	1,027,000	100.0
1	北 海 道	13,700	5,050	691,900	642,000	62.5
2	佐 賀	2,840	5,180	147,100	130,700	12.7
3	兵 庫	1,720	5,620	96,700	82,400	8.0
4	長 崎	753	3,920	29,500	26,600	2.6
5	愛 知	622	4,920	30,600	27,000	2.6
6	熊 本	333	3,590	12,000	10,100	1.0
7	静 岡	308	3,940	12,100	10,900	1.1
8	愛 媛	251	3,200	8,030	5,910	0.6
9	新 潟	250	2,150	5,380	2,690	0.3
10	栃 木	245	4,850	11,900	10,200	1.0

○ 冬にんじん						
順位	全 国・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	8,120	3,200	259,900	224,500	100.0
1	千 葉	2,460	3,620	89,100	82,100	36.6
2	茨 城	653	3,540	23,100	18,800	8.4
3	長 崎	575	3,860	22,200	20,600	9.2
4	鹿 児 島	527	3,460	18,200	14,900	6.6
5	宮 崎	479	3,250	15,600	14,100	6.3
6	愛 知	437	4,420	19,300	18,100	8.1
7	埼 玉	378	3,520	13,300	11,300	5.0
8	熊 本	360	3,210	11,600	9,890	4.4
9	青 森	271	2,680	7,260	6,600	2.9
10	新 潟	145	2,600	3,770	2,800	1.2

○ 秋冬はくさい						
順位	全 国・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	13,400	4,650	622,900	472,200	100.0
1	茨 城	2,700	7,060	190,600	177,600	37.6
2	長 野	677	8,010	54,200	44,800	9.5
3	福 島	590	3,080	18,200	5,830	1.2
4	栃 木	510	5,110	26,100	17,400	3.7
5	埼 玉	493	4,610	22,700	14,000	3.0
6	宮 城	481	1,920	9,240	3,400	0.7
7	兵 庫	476	4,530	21,600	14,900	3.2
8	愛 知	467	4,440	20,700	18,400	3.9
9	新 潟	405	2,020	8,180	2,860	0.6
10	群 馬	403	4,820	19,400	14,100	3.0

○ 冬レタス						
順位	全 国・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	7,910	2,370	187,600	173,500	100.0
1	茨 城	1,500	2,300	34,500	32,500	18.7
2	兵 庫	828	2,820	23,300	21,800	12.6
3	香 川	772	2,160	16,700	15,700	9.0
4	静 岡	734	2,450	18,000	17,300	10.0
5	福 岡	662	1,830	12,100	11,600	6.7
6	長 崎	662	3,610	23,900	21,500	12.4
7	熊 本	512	2,800	14,300	13,500	7.8
8	千 葉	339	1,900	6,440	5,810	3.3
9	愛 知	310	1,610	4,990	4,630	2.7
10	徳 島	302	1,910	5,770	5,340	3.1

## 6. 今後の気象予報

### 1ヶ月（3月5日～4月4日）予報に見る確率

	平均気温（1週目）3/5～11	平均気温（2週目）3/12～18	平均気温（3～4週目）3/19～4/1
北日本	低 10% 並 10% 高 80% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
東日本	低 10% 並 10% 高 80% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
西日本	低 10% 並 10% 高 80% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 50% 高 30% 平年並 の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並み の見込み
	太平洋側		少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
東日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側		少 10% 並 30% 多 60% 多い 見込み	少 50% 並 30% 多 20% 少ない 見込み
西日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側		少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
沖縄・奄美		低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み	少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み

注：「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較（以下同じ。）

出典：「全般1ヶ月予報解説資料」（平成28年3月3日発表 気象庁地球環境・海洋部）

◎3ヶ月（3月～5月）予報に見る確率

	平均気温 3月	平均気温 4月	平均気温 5月
北日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
東日本	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
西日本	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み

		降水量 3月	降水量 4月	降水量 5月
北日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	日本海側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並みか多い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み
沖縄・奄美		少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み

出典：「全般3ヶ月予報（3～5月）解説資料」（平成28年2月24日発表 気象庁地球環境・海洋部）